

成願寺

季報

129

令和3年8月18日
(2021年)

目次

「羅漢さまの功德④」大谷哲夫……………1

孟蘭盆会の報告……………4

中野たから幼稚園「卒園遠足」の報告……………5

山内短信……………8

発行 多宝山成願寺
〒164-0012 東京都
中野区本町 2-26-6
電話 03-3372-2711
制作 地人館

連載

羅漢さまの功德④

新宿区長泰寺 住職・元駒澤大学総長 大谷哲夫

十八羅漢尊者の姿態

第五尊者 諾矩羅 なぐら



第五尊者 諾矩羅

この尊者が、自然に同化しながらも口を堅く結んでいるのは、人間どものくだらぬ議論などつまらぬことだ、いらぬことは言わぬがよいと、鳥たちを相手に態度で示しているのかも知れない。それに気づいた鳥たちは一瞬そのさえずりを止めたという。弟子の阿羅漢八百人とヒマラヤの南方、南瞻部州に住む。

第六尊者 跋陀羅 ばつだら

ある日、この尊者の目前を横切ろうとした、かの金翅鳥（迦楼羅 カルラ）でさえ、その眼光にすくみあがり、一日中空中に停止させられ、その最も好餌とする龍を捕まえそこねた。それ以来、金翅鳥、龍女ともに

秋彼岸会のお知らせ

九月二十三日（木）秋分の日

十一時 受付始まり

十三時 秋彼岸法要

「修証義」を奉読いたします。ご参列の皆様は黙読にてご参加いただきます。

＊ご来山の際は体調を考慮の上、マスク着用、手洗い、咳エチケットなどにご協力いただき、感染症対策にお努めくださいようお願い申し上げます。

＊ご案内の行事は状況によっては変更または中止になる場合がございます。当山ホームページにてご確認いただくか、寺務所までお問い合わせください。



第六尊者 跋陀羅

にその太い眉と数珠で眼と耳が覆われてしまい、聞こうとも見ようともしない。何故そのようにするのかその真相は定かではない。俗世の汚濁にまみれた俗事でその眼光に少しでも陰りの射すのを嫌つてのことでもあろうか。いずれにしろ、彼の鋭い視線は時空の彼方にあつて何一つ語ろうとしない。弟子の阿羅漢九百人とインドの耽沒羅州に住む。



第七尊者 迦理迦

第七尊者
迦哩伽
その昔、迦哩伽
尊者は、太陽や月
はおろか地球上の
ありとあらゆる存
在が自分のために

彼に帰依し、常に
供物を持つてやつ
てくるようになって
たという。尊者に、
現世で起こってい
る様々な事件のこ
とを話すと、瞬時

のみあると信じた異常なエゴイストだった。それを見かねた釈尊が、ある日「その思い込みをやめよ。さもないと永遠に生きられまい」と諭された。彼は、お諭しに従い、自心のはたらきを一切停止させた。すると、いつの間にか彼の眉毛が伸びはじめ、その眉毛の輪の中に、彼をとりまくありとあらゆる存在と出来事の真実の姿がみえはじめたという。今でも彼は、その長い眉毛の中にあらゆる存在を把握し、地球上のあらゆる出来事の真実を見ている。弟子の千人の阿羅漢とインドの僧伽荼州に住む。

第八尊者 伐闍羅弗多羅



第八尊者 伐闍羅弗多羅

この尊者は、永
遠と無限の世界に
浮遊し、山川草
木を愛し、地上の
ありとあらゆる生
き物が大好きであ
る。特に、鳥獣と
は親しく、獅子や虎や龍とは大の親友だという。今
日も、龍がやって来て、表面的には大義名分を主張
しながら、その裏には自己中心的な欲望が渦巻く、

人間どもの醜い争いに激論におよび、その愚かしさに尊者の眼が光ったところである。今でも彼の眼光は、人間どもの愚かしさに腹を立てたまま、中空に止まっているのであろうか。弟子の阿羅漢千百人とインドの鉢刺拏州に住む。

第九尊者 戌博迦



第九尊者 戌博迦

よい、思案をめぐらせばめぐらせるだけ、話せば話すだけ、真実の仏法から遠ざかる」と口を開こうとしない。この尊者は、『大悲経』第二持正法品に出る北天竺の祁婆迦ともいわれ、正法を受持して広行流布すべき人物とも伝えられる。が、今は、口をつぐみ一切を語ろうとはしない。この尊者が口を開くのは一体何時のことであろうか。弟子の阿羅漢九百人とヒマラヤ山中の香醉山中に住む。

第十尊者 半託迦



第十尊者 半託迦

この尊者は、第十六尊者注茶半託迦（周梨槃特）の兄。母は王舍城の長者の娘であつたが、生活に窮し、二人はともに路傍に生まれたために、兄を大路（マハーパンタカ）、弟を小路（チューダパンタカ）という。この二人を十六羅漢に列したのは、先に出家した兄が後に出家した弟に「所作の善悪行は、去来今現在、億劫に忘失せず」という偈頌を与えたが、弟はそれを四ヶ月かかっても覚えられず、釈尊の示唆によつてさとりを開いた故事に因むといわれている。その故にか、尊者は今日も両手に柄香炉を持ち、清めても清めても汚濁する世間を凝視しているという。弟子の阿羅漢千三百人と須彌山の頂上である三十三天に住む。

第十一尊者 羅怛羅

この尊者は、釈尊が出家以前、耶輸陀羅妃との間にできた実子である。釈尊成道後、帰郷した釈尊の



第十一尊者 羅怛羅

えにこそ苦を忍ばなければならない」と慈訓された。以後、彼は釈尊の訓戒を微細によく守り、釈尊十大弟子の一人として密行第一と称せられ羅漢に列せられた。そのためであろうか、彼の人間の全ての不正や邪悪にたいする忿怒はすさまじい。眉は剣のごとく、眼光は大雷の稲妻のごとくきらめき、一瞬で全ての邪悪を見抜いてしまう。今日も一日、右手をぐつと指しだし、人間の心の中に潜む不正や邪悪を指し示しているという。弟子の阿羅漢千百人と印度の畢利廳瞿州に住む。

この稿は「十六羅漢の様相」（大谷哲夫編著）を成願寺季報向けに加筆・再編したものです。

孟蘭盆会の報告

去る、七月十一日（日）、恒例の孟蘭盆会を迎えました。昨年はコロナの影響で僧侶のみにて勤めましたが、今年は密にならないような座席の配置や換気、消毒など感染症対策にご協力いただき、檀信徒の皆さまとご一緒にお勤めいたしました。

十一時半より、導師・藤木道明老師（滋賀県東丹寺住職）にて、当山開山・歴住大和尚報恩供養会を引き続き、当山坐禅会を長くご指導くださいました鈴木格禪先生の二十三回忌、当山全ての大法要の維那（法要の進行を司る要職）として半世紀にわたり



開山・歴住大和尚報恩供養会



鈴木一馨師のお話を聞く檀信徒のみなさま

ご尽力いただきました塚野昭一老師の一周忌供養を執り行いました。

十三時よりの鶴見大学准教授・鈴木一馨師の説話のあと、盂蘭盆会を無事にお勤めいたしました。

また、副住職要介の息子堯成は昨年二月より鶴見の大本山總持寺様にて修行中ですが、お盆行事の手伝いに帰山。法要では導師の侍香をお勤めしました。

十三日の朝は、本堂での読経に続き、墓せがきを行いました。歴代住職の墓所からスタートし、香を焚いて、水の子（洗米と刻んだ野菜）を供えながら僧侶が墓地を巡ってご供養しました。



盂蘭盆会の様子



行道という作法で読経する方丈様方



坐禅の様子



お焼香をしてののさまに合掌

中野たから幼稚園「卒園遠足」の報告

去る二月二十六日（金）、成願寺・中野たから幼稚園年長組の卒園遠足が行われました。コロナ以前は大型バスに乗って横浜市鶴見区の大本山總持寺様へ記念参拝に行っていました。ところが、昨年同様に感染症対策の要請を受けて断念。そこで、教員皆で工夫を凝らした企画を準備して、成願寺で行いました。

十時にお寺に到着すると、いつも通りに本堂へ一礼とともに入堂。荷物を置いて靴をまっすぐに揃えて畳に上がります。靴をきれいに揃えることを仏教では「脚下照顧きやくかしょうこ」といいます。足下からきれいに整



本堂への出入りはおじぎをしてから



感謝を込めて拭き掃除



ほうきを持ってる羅漢さん、見つけた！



運動会を思い出して幼稚園最後のリレー

えましようなどの意味のほか、人生において何か迷いが生じた際は、自分の足下をよく確認しましょうなどの意味があり、大切な教えとなっています。

「三年間無事に園生活を過ごせたことを感謝し、お参りをする」ことがこの遠足のねらい。毎月主事先生の指導で正座、おじぎ、合掌、坐禅などを修行してきた年長さん。この日、幼稚園生活最後となる坐禅を修行しました。子どもたちにとって、動かず、しゃべらず、ただじっと坐るということは難しいことですが、作法の通りに行い、一年間の成果を発揮して立派につとめることができました。使用した坐蒲は

自分で廊下に戻しに行きます。そこまでできて坐禅の修行なのです。

続いて数名ごとに一列に並んでご本尊様にお焼香、合掌すると、お願い事を……なむなむ。最後に正座で主事先生と向き合い、互いに一礼をして「ありがとうございました。」ご挨拶をいたしました。

本堂前に集合してクラスごとに記念撮影。その後は作務体験です。作務は坐禅と並ぶ大切な修行の一つで、一般的なことばで言えばお掃除のことです。大本山總持寺様では、毎朝、修行僧が「百間廊下」という長い廊下の雑巾がけを行います。何人もの修



合掌していただきます



御守りをいただく子どもたち



中野から幼稚園の創設者・義堯大和尚の銅像の前に整列

行僧が毎朝拭き掃除するわけですから、ピカピカです。汚れていてもなくても掃除をする。それがやがて自分の心を磨くことにつながるのです。この日はクラスごとに、本堂で雑巾がけと、外で竹ぼうきでの掃除を体験しました。子どもたちは、畳の雑巾がけも、竹ぼうきでの掃き掃除もほとんどの子が初めてで、これまで使わせていただいたお寺のお掃除を心を込めて行いました。

修行の次は「らかんさん探しゲーム」とリレーをしました。羅漢さんは成願寺の境内に十六人いらっしゃいます。配られたカードに写真が載っていて、

どこにどの羅漢さんがいらっしゃるか「よいいスタート!」。羅漢さんに見守られながらのゲームとなりました。運動会のチームでリレーを楽しんだあとは、密を避けるために書院と南書院に分かれて、待ちに待ったお弁当タイム。年長さんたちは、普段から食事の前に「五観の偈げもん」という食事をいただく際の心が書かれた偈文をお唱えしています。

心静かに手を合わせ、感謝の気持ち、反省の心を持ち、好き嫌いなどはせず、元気に今を大切に過ごすためにこのごはんをいただくのです。主事先生の戒尺かいしゃく(拍子木)に合わせ、元氣いっぱい唱和して「いただきます!」。お家の方の力作ぞういのお弁当をうれしそうにいただきました。

主事先生から「小学校でも元気に過ごしてください」と御守りをいただいて、楽しかった遠足を終えました。

山内短信

◎世田谷学園校長・学監来山



去る六月二十八日(月)、仏教や曹洞禅を若い世代に伝える世田谷学園(中学校・高等学校)から、校長の山本慈訓先生と学監の最勝卓道先生が来山されました。

学園の近況をご報告、ご案内いただきました。

◎全山消毒作業の報告



孟蘭盆会を間近に控えた六月二十八日、門前、裏山、墓地、中庭にいたるまで、消毒作業が一斉に行われました。特に墓地の花入れから蚊が発生しますので、ご参拝の皆さまが快適に墓参していただけるように毎年この時期に実施しています。

◎中野区立塔山小学校三年生、社会科見学に来山

去る三月十六日(火)、お寺より北へ徒歩十分ほどの塔山小学校の三年生が社会科見学に訪れました。

まずは何組かにわかれて旧防空壕の見学へ。「戦時中は標的とならないよう、真っ暗な中、息を殺して空襲が終わるのを待ったのです」という副住職の案内に耳を傾けた後、明かりを消して真っ暗に。短い時間でしたが、当時の怖さに思いを馳せることができました。

本堂へ移動して住職より、昭和初期の近隣の様子や戦争中の体験談、お釈迦様の教えについてお話がありました。



旧防空壕を見学



本堂で住職の話を聞く児童